



拡大版 小平市公共施設マネジメントニュース 平成31年2月特別号

中央・小川デザインカフェ第1部の様子をより詳しくお伝えします。

小平市では、将来の人口減少、少子高齢化や施設の老朽化など、公共施設を取り巻く環境の変化を見据え、公共施設の延べ床面積の適正化や魅力あるサービスの実現等に向けて取り組む公共施設マネジメントを推進しています。

公共施設マネジメント推進計画に基づき、老朽化を理由として更新等を行うとした市役所周辺の中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館、また小川駅西口地区市街地再開発事業において取得する公共スペースと小川駅近隣の西部市民センター、小平元気村おがわ東などの複合化等について、行政機能の向上を図るとともに、将来的なニーズを意識しながら、量の豊かさから質の豊かさへの転換に向けた次の世代の公共施設づくりを目指して、平成31年の秋頃を目途に基本計画を策定する予定です。

中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館、西部市民センター、小平元気村おがわ東の複合化等について、「中央・小川デザインプロジェクト～次の世代の施設を考えよう～」と題し、ワークショップの実施、アンケートの実施、利用者・利用団体ヒアリングの実施、小・中学校を対象とした出前授業の実施などによって、市民参加で検討を進めています。

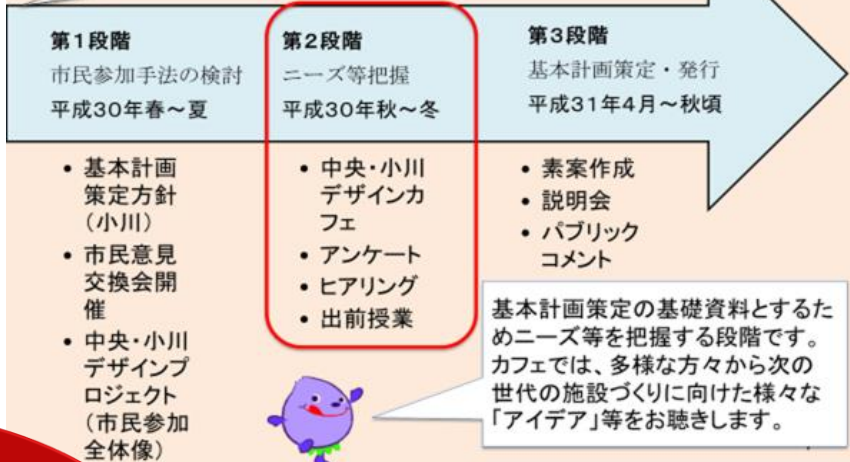
「中央・小川デザインカフェ」は、このプロジェクトにおけるワークショップの取り組みとして開催しました。

コーヒーやお茶を飲みながら、カフェに来たようなリラックスした気持ちでたくさん語り合っ、日頃感じていることや意見やアイデアを出し合いました。

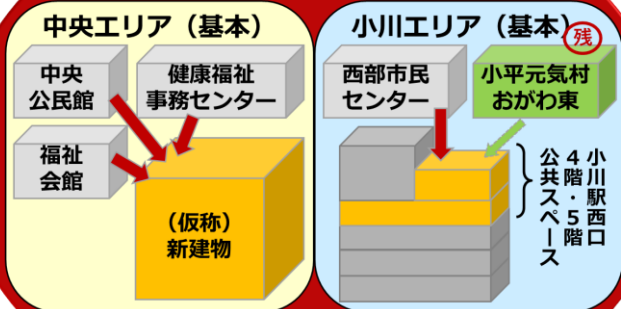
市は、この「中央・小川デザインカフェ」の成果等を踏まえて、基本計画の策定を進めていきます。

●基本計画策定までの市民参加ロードマップ

平成29年度中央の基本計画策定方針作成



中央・小川デザインプロジェクト



考え方・アイデア・見直し・機能の連携等
＝中央・小川エリアの連携

「中央・小川デザインカフェ」は、平成30年11月に第1回を開催しました。平成31年3月の最終回までに、中央と小川の各エリアで第1部、第2部と3回ずつに分けて、6回ずつ(計12回)の構成で進めています。

中央・小川デザインカフェの様子は、公共施設マネジメントニュースで速報としてお知らせしています。

今回は、ニュースの拡大版として平成30年12月までに終了した各エリアの第1部の様子をより詳しくご紹介します。

1. 開催実績のご報告



各回下記の日程とテーマで開催しました。各回ともお忙しい中たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。最初は若い世代の参加がないことが課題でした。しかし、徐々に学生の方の参加も増えて、多世代に渡る活発なご意見をいただきました。

日程				場所	テーマ	参加人数
第1部	第1回 11/10 (土)	中央	10:00 ~12:00	中央公民館 講座室 2	中央公民館周辺の未来を想像しよう！	19名
		小川	14:00 ~16:00	小川西町中宿地域センター 集会室	小川駅周辺を見つめよう！	16名
	第2回 12/2 (日)	中央	14:00 ~16:00	中央公民館 学習室 4	誰もが使いやすい公共空間を考えよう！	17名
		小川	10:00 ~12:00	小川西町公民館 ホール	公共スペースのあり方を考えよう！①	15名
	第3回 12/22 (土)	中央	9:30 ~12:00	福祉会館 小ホール	公共空間の価値創造提案を考えよう！	20名
		小川	14:00 ~16:30	小平第六小学校 多目的室	公共スペースのあり方を考えよう！②	15名

2. 第1回中央・小川デザインカフェのご報告

第1回は、まず中央・小川デザインカフェについての説明や市のこれまでの取り組みの経過等について説明しました。その後、参加者同士でお互いを知るために、簡単な自己紹介タイムを設けて交流しました。中央・小川それぞれでのプログラムは次のように進めました。

(1) 第1回中央デザインカフェの概要

中央デザインカフェでは、ワーク1・2として、中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館のある市役所周辺の中央エリアについて、「良いところ・得意なところ」と「嫌いなところ・苦手なところ」について考えました。次に、ワーク3として、未来のエリアがどうあるべきかを仮に20年後と設定して考えました。そして、そこで出た意見を基に、未来のエリアに欠かせないと思われる要素を3要素に絞りました。

(2) 第1回中央デザインカフェのワークで出たご意見

- ・中央エリアは、小平市の真ん中に位置しているため、色々なところから人が集まれる。
- ・中央公民館の駐車場が広く、駐車可能台数が多い。
- ・自転車でも行きやすい。
- ・見晴らしがよく、屋上から、富士山やスカイツリーが見える。
- ・施設内の部屋数が多い。
- ・駅からも近く、市内外からのアクセスが良い。
- ・周辺に咲く桜がきれい。
- ・静かで過ごしやすい。
- ・公民館内に、文化系の発表の場など、ギャラリースペースが多い。
- ・小学校などの学校機関が近くに多い。
- ・ドラッグストアが近い。
- ・都営バスの運行が1時間に1本ある。
- ・災害が少ない。
- ・川に、メダカがいたり、木々が生き茂っていたり、自然に囲まれている。
- ・カフェ、ロビーなどのスペースが空いていて、利用しやすい。
- ・スペースを無料で活用できる。
- ・公民館と福祉会館との距離が近く、公民館には食堂もある。
- ・施設の利用者が多い。
- ・公民館のスタッフが優しい。
- ・機能が1つの区域にたくさん集まっているため利用しやすい。
- ・中央公民館の広場は、祭りができるから良く、開催も多い。
- ・ホールは、講演会などに活用する人にとって使いやすい。
- ・予約しやすい。

今の中央エリアでも、こんなところが良いところだと思うなあ・・・



○中央エリアの嫌いなところ・苦手なところ

- ・道路や、踏切周辺に危ないと感じるところがある。
- ・食堂やコンビニが少ない。
- ・コミュニティバスがなく、バスも少ないため、車でないと移動しにくい。
- ・事業地辺りのエリアのトータルデザインができていない。
- ・緑が少なく、庭がない。
- ・災害の観点での整備がされていない。
- ・トイレが使いづらい（和式である）。
- ・公民館に雑談するスペースがない。
- ・青梅街道駅が遠い。
- ・歩道が狭く、ベビーカーを活用する子育て世代や、車いすを使う障がい者、高齢者にとって不便である。
- ・一方通行のところが多く、車の移動が不便な場所がある。
- ・標識などの目印が少ない。
- ・子どもの遊ぶ場所が少ない。
- ・田舎のイメージが強い。
- ・施設内に休む場所が少ない。
- ・施設内に灰皿が置いてないため、喫煙者にとって不便（灰皿難民が生まれる）である。
- ・宣伝が下手で利用者が少ない。
- ・ホールが狭い。
- ・Wi-Fiが使いにくい（すぐ切れる）。
- ・壁が汚い。
- ・レストランが少ない。
- ・道や施設内の段差が多い。
- ・文化系の発表、特に大学生による文化系の発表が少ない。
- ・施設利用者の横のつながりが少なく、施設同士の連携もあまりない。
- ・施設を利用していない人から見ると、何をやっている施設なのか分からない。
- ・福祉会館のエレベーターが、高齢者や障がい者にとって使いにくい。
- ・天井が低く、大道芸による演出などが難しい。
- ・壁に展示物を張りにくい。
- ・暗い。
- ・駐輪場が少ない。
- ・近くにある踏切が混んでいて渡りにくい。

今の中央エリア、
こんなところは良い
方に変わって行って
欲しいなあ・・・



○20年後のエリアを考える・エリアの未来を3要素にまとめる

- ・今後インフラ関係の整備、特に道路の拡大がなされるため、移動がスムーズになるのではないかな。
- ・道路整備に伴い中心地の整備が想定されるため、緑が減らないように、緑を重視した環境整備が必要なのではないかな。
- ・鉄道がなくなることを想定したまちづくりが重要なのではないかな。
- ・市内には、工場や研究所があったが、撤退しているため、今後、研究所等がなくなることも考えてまちづくりを考えるべきではないかな。
- ・遊園地などの人が集まる何かを整備をすると良いのではないかな。
- ・大学生が来てくれるまちづくりをしていくのが良いのではないかな。
- ・福祉のまちとして、介護される人の充実はもちろんだが、介護する人を増やし、より福祉が充実するまちになったら良いのではないかな。
- ・高齢者が会話できる場所を増やし、特に、大学生などの市に来てくれる若者と会話できる場所を増やすのが良いのではないかな。
- ・海外移住者を増やし、国際色を強くするのが良いのではないかな。
- ・最近では、面白い遊具や子どもが自由に遊べる場所も少なく、孫と遊べる場所が少ないため、遊べるような場所を増やすまちづくりが良いのではないかな。
- ・施設に、エレベーター、防災避難の工夫、障がい者のための電光掲示板、子どもが自由に書けるホワイトボードの用意、多目的教室を作るなどの取組みが必要ではないかな。
- ・市民が芸術について発信できる場、特に、若い人が発信できる場を作っていく文化の香りのするまちづくりが良いのではないかな。
- ・高齢者の健康維持のため、筋トレ可能な空間や階段を設置し、運動の場を増やすのが良いのではないかな。
- ・高齢者が多くなることを想定し、高齢者にとって快適・便利に過ごせるよう、エレベーターの混雑の緩和のための措置、エスカレーターの増加、電動車いすを設置するなどの取組みも考慮したまちづくりをしていると良いのではないかな。
- ・他のエリアの人が来やすいよう、交通面での配慮（路線への配慮）をするのが良いのではないかな。
- ・子育てしやすいまちづくりを行うのが良いのではないかな。
- ・屋上緑地、温暖化対策などを実施し、環境に配慮したまちづくりを進めるのが良いのではないかな。

(3) 第1回小川デザインカフェの概要

小川デザインカフェでは、小川駅西口公共スペースの計画の現状を共有したうえで、再開発施設建築物の4・5階に再配置される予定機能として、図書館機能・公民館機能・広めの多目的室機能の3つについて、求める要素を出し合いました。そして、その機能と共存する行政機能（出張所機能）のあり方について、意見やアイデアを出し合いました。

(4) 第1回小川デザインカフェのワークで出たご意見

機能	ご意見（求める要素）
図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、どんな人にも開けた教育の場にする。 ・新しい図書館には、レファレンス機能のみ設け、本は中枢の図書館にまとめる。 ・本を自由に読めるスペースが欲しいため、東池袋公園のように広場で本を読めるようにする。 ・幼児のために、絵本を読むスペースを設ける。 ・図書、特に、専門書を寄附できるようにする。 ・新しい機能（例えば、手話付きDVDがあるなど）がある図書館にする。 ・何かに特化した図書館である。 ・雑誌、新刊が置いている。
公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリーが必要である。 ・イベントや教室を実施しやすいようにする。 ・市民の力を発揮できる場にする。
広めの多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的に使える部屋が必要である。 ・多目的ホール（200～300人収容可能なサイズ）を整備する。ホール内は、階段式になっていると一番良い。 ・コンサートを実施出来るように、防音設備が必要である。
施設全体	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設には、カフェ併設もしくはお酒（ワインなど）を呑めるスペースを設ける。 ・現状の公共スペースは似たような用途のスペースが多いため、重複しないようにする。 ・若い人や子どもを連れて気軽に来られるように、オープンスペースを用意する。 ・健康の維持向上につなげるため、スポーツジムを設ける。 ・仕事可能な場にするために、オフィススペースを設ける。その結果、民間事業者から借地・賃借料を得られるようにする。 ・高齢者や障がい者にとって分かりやすい標識を設ける。 ・コワーキングスペースを設け、同施設内に、託児所や保育園も設ける。 ・Wi-Fiがつながる。 ・高級ソファが設置されている。 ・個人が居場所を感じるスペースを設置する。 ・リアルタイムで市の状況が分かる機能がある。 ・外でイベントができると良い。 ・24時間開館している。 ・BGMがかかっている空間があっても良い。 ・既存施設の活用が必要である。 ・吹き抜けがあり、自然光が入ってくる場にする。 ・駐車場や駐輪場がある。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインとする。 ・西武鉄道との連携が必要である。 ・人が集まる空間にして、子育て世代を増やし、人を増加させる。 ・小学生、中学生、高校生、大学生なども含め、多世代が集まれる場にする。 ・給水スポットを設置する。 ・ボランティアが活躍できる場にする。 ・利用者を増加するために、高齢者のためのスペースを増加させる。



3. 第2回中央・小川デザインカフェのご報告

第2回では、ワークに入る前に、第1回のデザインカフェを振り返り、前回出た意見やアイデアを参考にして、第2回のワークを行いました。



(1) 第2回中央デザインカフェの概要

中央デザインカフェについては「誰もが使いやすい公共空間を考えよう」をテーマとして、第1回での中央エリアの未来の理想像も踏まえながら、自分たちにとっての「居心地が良い場所」とはどんなところかを考えました。

そして、グループごとに出た「居心地が良い場所」の共通点などを探しながら、どんな要素が居心地の良さに繋がっているのかを考えました。そのうえで、そういった場所になかなかいない人はどんな人達か、どうして来られないのか、そういった人たちの居心地の良さは自分たちが出した場所とどう違うのか、などを考えました。

最後は、中央エリアにおける「居心地が良い場所」はどこだろう、あるいは、どうしていったら居心地が良くなるだろう、ということを考えて意見やアイデアを出し合いました。



(2) 第2回中央デザインカフェで出たご意見

Aグループ	<p>「居心地が良い場所」ではなく、「居心地が良さそうで悪いところ」の話の方が多かった。このエリアにいない人、見かけない人についても、実は「いない」のではなく、見た目では分からないけれど実は困っている人がいるのではないかという話になった。障がい者の「居心地の良い場所」についても、他の人とのコミュニケーションができる場を設けて欲しいと思う。障がい者支援関連の機能を持つ施設は、他のよく使う機能がある施設と離れたところに位置していることが多いため、それだけで使い勝手も悪く、コミュニケーションも取りづらい。新しい施設には、そういった面を踏まえて機能を複合化させるのはどうか。</p>
Bグループ	<p>中央エリアには、「居心地が良い場所」があるイメージがあまり浮かばなかったが、あるとすれば、公民館のロビー、Wi-Fiがあるところ、自然などの癒しの場などの意見が挙げられた。また、中高生や学生にとっては、自由に使える自習室があると居心地が良いのではないかという話になった。また、交通の便が悪いことが理由で来られない人や情報を知らない人が、その場にいない人だと考えた。そういう人たちにとっても居心地が良くなるためには、ニーズを把握して、その分野に投資する必要もあると思う。交通面も含めて、仲間と繋がれる空間整備やインターネット環境の改善を行うことも必要だと思う。</p>
Cグループ	<p>「居心地が良い場所」としては、図書館と公民館。特に、機能が備わっているホールとロビー、印刷室が挙げられた。これらは情報交換の場だと思っている。なかなか見かけない人としては、平日であれば仕事をしている人、全般的に見れば子ども、中高生、大学生、高齢者、障がい者だと思った。誰もが居心地が良い場づくりをするのであれば、緑がある中庭などの工夫をすること、施設の外にある自然と施設をつなぐような空間をつくること、情報を提供できて受け取ることもできること、コミュニケーションが取れること、小平らしさがあること、飲食できる売店やロビーがあることなどが挙げられた。また、対象別には、エレベーターが前後に出入りでき、バリアフリーで障がい者が使いやすいものを増やすことや、子どもや若者を呼べるよう、自習スペース、ダンスのスペースの設置をすることなどについても、アイデアが挙げられた。</p>
Dグループ	<p>「居心地が良い場所」としては、公民館、市役所、電車が見えるところなどが挙げられた。全般的に、緑を望む声が多かった。そういった場所にいない人、見かけない人を考えた時に、障がい者・若者・働き世代・高齢者が挙げられた。ただし、それらも、平日か休日、夏休みかによって、変わると思うため、もっと深く分析すべきことなのではないかと思った。そして、見かけない人やいない人の極論では、「まだ産まれていない世代」という話にもなった。そういった場所を居心地良くしていくためには、ハード面ではバリアフリー化、インフラの整備が必要だと思った。ソフト面では、人の手を借りないと外に出られない人のために、人手が必要であると考えた。</p>

(3) 第2回小川デザインカフェの概要

小川デザインカフェは、第1回の内容を踏まえて、「公共スペースのあり方考えよう①」をテーマとして、3機能それぞれについて、第1回で「こうしたい」「こうだったらいいな」と出し合った意見を基に、3機能(図書館機能、公民館機能・広めの多目的室機能)それぞれに欠かせない要素を一言にしたコンセプトを考えました。中には公共スペース全体のコンセプトを考えたグループもありました。

コンセプトにした理由も発表し、他のグループの良い部分も取り入れ、改めてコンセプトを考え直しました。そして、そのコンセプトを実現するために、小川駅西口の新しい公共スペースにどのようなゾーニングができるかを考えてくることを宿題としました。



中央・小川両エリアで、たくさんワークをしてもらいました!



(4) 第2回小川デザインカフェのワークで出たご意見

	機能	コンセプトと内容
Aグループ	全体	<u>「本がつなが地域」</u> 図書館機能を他の機能と完全に分けてしまうのではなく、ゆるやかに図書館機能がつながっているようなイメージで、施設全体が図書館となると良いのではないかと考えた。レファレンス機能もしっかりとあること、「ここに来れば何かがある」というわくわくした場となると良い。
	図書館	
	公民館	<u>「多様に利用できる空間」</u> 多様に利用できるということは、「使う人が使い方を考えられる空間」だと思った。例えば、和室を和室としてのみ整備すると、和室での用途にしか使えない。そのため、プロジェクター、畳、鏡、キッチン、椅子、机など、備品として様々に用意することによって、交流の場にできたり、映画を観たり、ダンスができたり、料理ができたり、会議室として使えるようにするというように、多様に利用可能なことが必要だと考えた。
	広めの多目的室	
Bグループ	全体	<u>「テクノロジー・エンターテインメント・デザイン(=TED)」</u> 3つのコンセプトを繋ぐ全体コンセプトを考えた。様々なことに意識の高い人に対して、情報を提供できる場であると、より意識の高い人が住みやすく活発になるのではないかと考えた。
	図書館	<u>「子どものための図書館」</u> もっと子どもが学べる場が必要であると思ったので、子どもに特化するのも良いのではないかと考えた。
	公民館	<u>「フリーダムな公民館」</u> 用途を決めて整備するのではなく、間仕切りを用いて、会議やワーキングスペースなど様々に活用できるようにするのが良いと思う。公民館と同じような意味合いで、多目的室についても自由に使える場であることが必要だと思う。スピーチ大会なども実施できると良い。
	広めの多目的室	
Cグループ	全体	— ※全体コンセプト案は無し。
	図書館	<u>「住民の居場所としてくつろげて、視聴覚で訴えかける図書館」</u> 住民がそこに訪れるとくつろぐことができ、本や専門書などもゆっくり読める空間であることと、視聴覚で楽しめて学びがある図書館だと良い。
	公民館	<u>「気軽に誰でも利用できる公民館」</u> 楽しいものがある、皆で集まれる、行政機能が集まっている、社会教育の講座がある、市民の話題となるものを提供できるという場であると良い。
	広めの多目的室	<u>「気軽に利用できて行きたくなる広めの多目的室」</u> 使う目的に応じて使えることで、魅力を高められて、フリーに利用できると良い。
Dグループ	全体	<u>「情報と絆の交差点(店)」</u> 「交差点」とは、情報と絆が交わる場所という意味でもありながら、「点」を「店」とも置き換えられるように、商店街のような情報の交差やコミュニケーションの場にもなるというコンセプトだと良いのではないかと考えた。情報と、人と、ことばと、絆をつなぐ場として、市民が誰とでもつながるような場になって欲しいと思った。
	図書館	
	公民館	コンセプトは全体コンセプトが各機能にもかかっているイメージで考えていたが、施設機能全体で大事にしたいと思った共通点は、誰でも来てゆっくりできること、開かれた場であること、多様に使える場であること、歴史がビジュアル化されていること、各機能をガイドンズできることなどが挙げられた。
	広めの多目的室	



各グループ発表で、
「おお～」 「いいねえ～」
と声があがりました！



4. 第3回中央・小川デザインカフェのご報告

第1回・第2回のデザインカフェを振り返り、出た意見やアイデアを参考にしながら、第3回のワークを行いました。

(1) 第3回中央デザインカフェの概要

中央デザインカフェについては、「公共空間の価値創造案を考えよう」をテーマとして、第1回で出した中央エリアの未来の理想像と、第2回で出した誰もが「居心地が良い」と思える場所にするためのアイデアを踏まえて、①誰もが使いやすい施設としての工夫を考えよう、②利用者にとっての魅力を考えよう、③新建物を長期的に維持していくための工夫を考えよう、④①から③で出たアイデア等を踏まえて新建物のコンセプトを考えよう、の4つの視点での新建物における価値創造提案を行いました。

各グループで①から④を考えた後、他のグループが考えた内容も共有し、良いところや真似したいところ、見直したいところなどについて改めて検討タイムを設け、再度詰め直した状態で発表しました。

(2) 第2回中央デザインカフェで出たご意見

	ワーク	ご意見
Aグループ	コンセプト	22世紀につながる建物
	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> 案内モニターを設置することで、施設の空き室情報や駐車場が利用できるかどうかをすぐ分かるようにする。 地下駐車場や立体駐車場を整備し、多くの人に来て駐車場を使えるようにする。 ストレッチャーも乗せられるようなエレベーターを設置する。 余裕をもって、複数のエレベーターを確保する。 エスカレーターを設置する。 トイレを清潔にし、トイレの場所は分かりやすく、使いやすくする。
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や団体登録をIDやアプリで可能にし、簡単にアクセスできる環境を整備する。 利用予約がとれて簡単に支払いができるようにする。 広いオープンスペースを設置し、かつ、個別にも使えるスペースにする。 模型などの工作ができるような自由に使えるスペースを設置する（有料でも良い）。 送迎バスやコミュニティバスなどによって、交通アクセスを整備する。
	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 個人事業主や営利企業に施設を貸し出して収入を得る。 ネーミングライツを導入する。 シンプルなデザインで維持管理しやすい素材、建材を使った建物（例えば、簡単に掃除ができるなど）にする。
Bグループ	コンセプト	「フラットホーム」（ふらっと立ち寄れる／小平のフラットな地形を活かす／誰にでも使いやすく、フラット／収支も工夫してフラットに）
	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが訪れやすい建物とし、時間の使い方の意味合いも含め、最大限有効活用できる建物とする。 シンプルでフレキシブルな建物にする。 空間をパーティションで区切れるようにする。 けが人を搬出しやすく、災害時にも対応しやすい施設とする。 トイレ等、バリアフリーに配慮する。 屋上を活用してイベント（できれば常設イベント）を実施し、人が集まりやすくする。
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> おせちのイベントをやるなどして、年末年始も施設を開放し、施設をフル活用する。 オールナイトも可能な施設とする。 利用者の活動内容をHPで発信し、閲覧できるようにする。 防音設備を整え、ガラス張りの高品質な建物とする。 交通アクセスを良くする。 民間参入は複数店が競争できる仕組みとする。
	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 地域通貨を導入する。 マルシェ、バザー、学生の絵をオークション展示するなどのイベントを実施し、マージン等で収入を得る。 企業とのタイアップで広告収入を得るなどの仕組みを構築する。

	ワーク	ご意見
Cグループ	コンセプト	小平コム (COME、コミュニケーション、com)
	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術、自然を大事にする。 ・世代を超えて誰もが利用しやすいバリアフリーを実現する。 ・使用料について配慮する。 ・電光掲示板の設置等を行う。 ・ドアやエレベーターは使いやすさに配慮する。
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある施設とするには、人の流れが重要であるため、高層階から低層階へ人を流れさせるのが良いと考え、屋上に人を誘導できるよう、屋上に付加価値をつける。 ・行政機能を1つにし、ワンフロアに整備する。 ・夜カフェや、ビアカフェを整備する。 ・夜景が見られるようにする。 ・コンサート、映画などを実施する。 ・フリースペースを整備する。 ・機の配置を自由に変えられるようにする。 ・屋上にホテルを整備し、露天風呂も整備して、その収益を利用する。 ・一つの目的に来た人も、他の階に立ち寄れる、参加出来る場とする。
	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除しやすい施設にする。 ・農産物のアピールやパンフレットの設置、小平のブランドを売る。 ・どういう企業を誘致するのかが重要。 ・管理を一元化する。
Dグループ	コンセプト	みんなでニコニコ／健康づくり／笑顔が集まる、笑顔でつながる広場／居心地のいい新建物／ゆるーい場所 ※複数案
	誰もが使いやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関やロビーは広くする。 ・エスカレーターも設置する。 ・可動式の仕切りで部屋の共有化を行う（それぞれの広さを確保する必要はないので、出来る限り効率よく利用できるスペースとし、デッドスペースを減らす）。 ・トイレを使いやすくする。 ・利用電子板を設置する。 ・音声案内を設置する。 ・点字ブロックを設置する。 ・予約制のスペースと、フリースペースを分けて整備する。
	利用者にとっての魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・利用時間の見直しを行う。 ・座りやすい椅子を設置する。 ・高齢者世代が、カラオケや体操を行える部屋を設置する。 ・高齢者のための居場所としてサロンを設置する。 ・総合案内窓口を整備する。 ・緑を感じさせる空間づくりをする。 ・交通アクセス（バスがメイン）を充実させる。 ・女性相談機能についても配慮する。
	長期的に維持するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・経費を「見える化」する。 ・募金箱を置く。 ・エコチューニングの建物とする。 ・再生エネルギーを活用した建物とする。 ・市の物産や備品などを販売する。 ・催し物をして、入場料を寄附する。 ・バザーの場所代を取るなどして、料金を取る。 ・利用料金を有料にし、サービスを充実させる。 ・健康づくりのために、庭や施設内にウォーキングスペースを整備する。 ・屋上庭園を整備する。



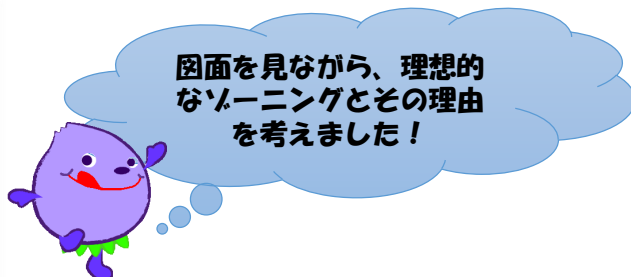
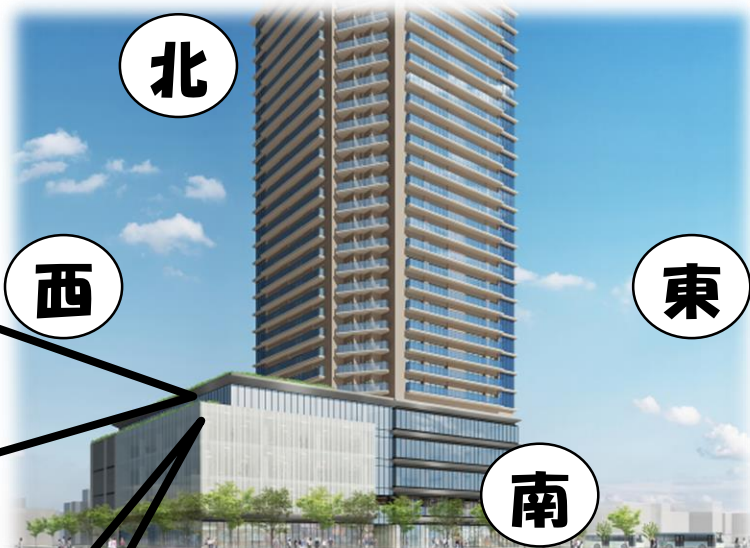
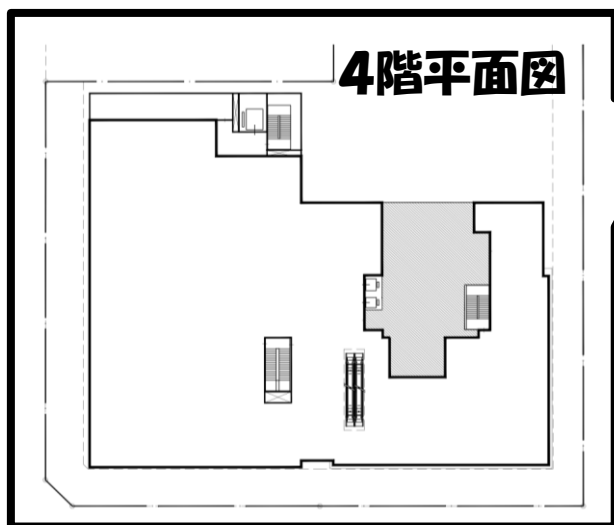
第1部中央デザインカフェの締めくくりとしては、これまで「こうだといいな」「こうしたいな」と出してきた意見やアイデアを上記のようにカテゴリー毎に分けてもらいました！

(3) 第3回小川デザインカフェの概要

小川デザインカフェについては、第1回、第2回で出てきた、図書館機能・公民館機能・広めの多目的室機能の3つについて求める要素と、それぞれのコンセプトを基に、小川駅西口の新しい公共スペース4・5階の白図を見ながら、ゾーニングを考えるというワークを行いました。中央デザインカフェと同様に、まずは各グループで考えた後に、他のグループからアイデアの説明を受ける時間を設け、良いところを盗んだりアイデアを練り直したりしたうえで、各グループの最終案を発表しました。

○小川駅西口駅前にできる新たな建物の完成イメージ

※今後、完成イメージや平面図は一部変更する可能性があります。



(4) 第3回小川デザインカフェで出たご意見

○Aグループ

・全体

コンセプトを「本がつなぐ」として
いるため、そのコンセプトに合った配
置とした。本が色々な所があり、各機
能が混ざり合った配置にしている。空
いているスペースには、休憩スペース
を配置している。

・4階

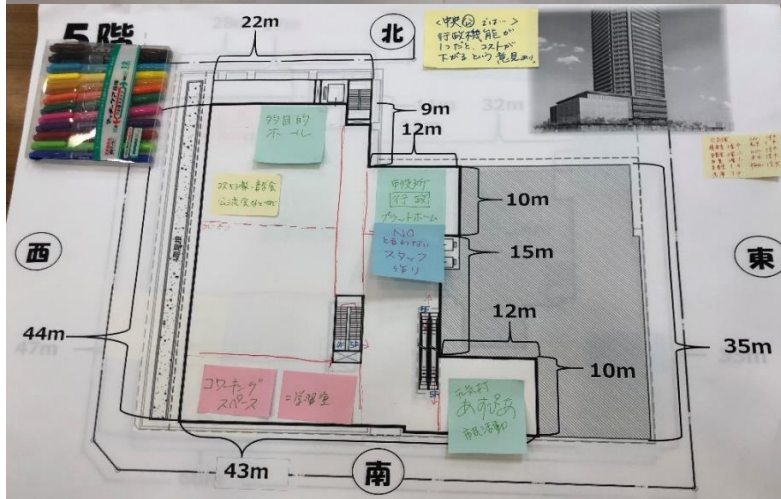
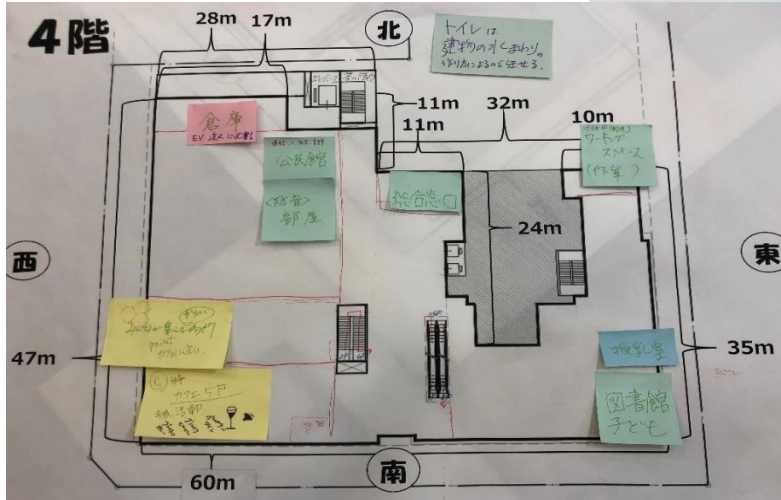
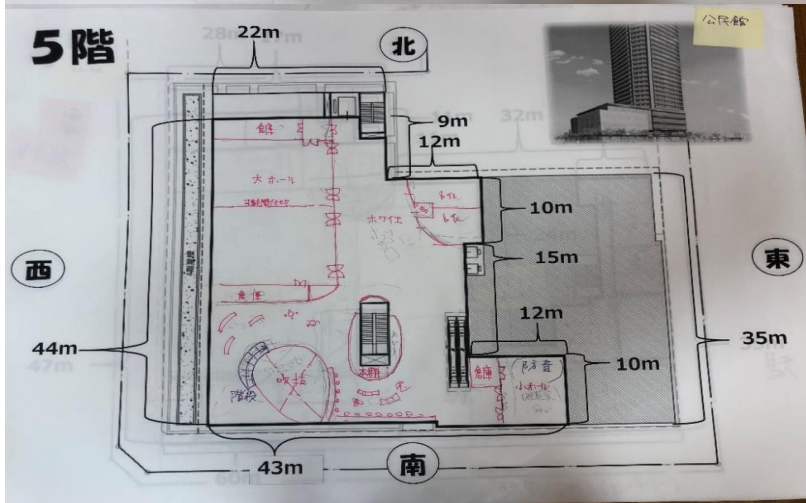
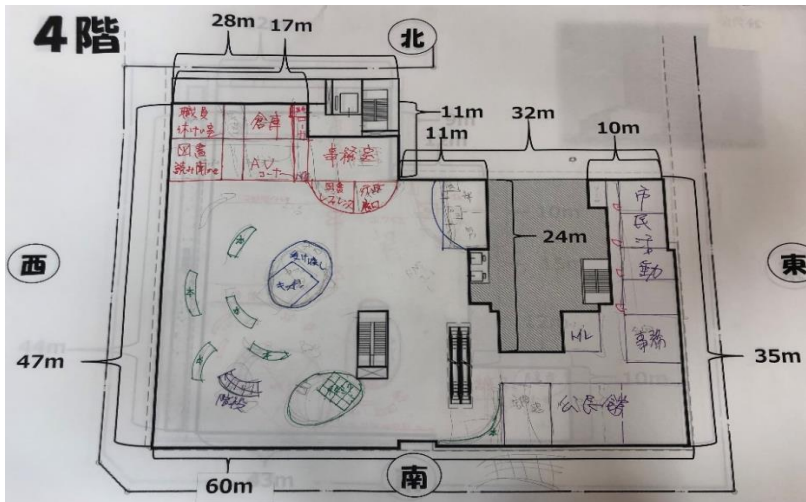
北側に事務スペースや図書貸し出し
機能など行政サービス機能を配置し、
図書スペース内に、カフェやキッチン
を配置した。東側に、公民館機能と
して、市民活動スペースを配置した。可
動式のスペースを設け、小規模な活動
を行える場とした。

・5階

北西側に、200~300名が収容できる
広めの多目的室を配置している。ただ
し、この多目的室は、稼働式とし、間
仕切りで多様に活用できるようにした。
ホワイトも設置した。

・その他

4階から5階に、吹き抜けにし、本
が繋ぐ森のようなイメージで考えた。



○Bグループ

・全体

通路は、道幅を広くし、障がい者が通り
やすい空間とした。

・4階

公民館機能と図書館機能を配置し、防音
の空間とした。対象としては、子どもを中
心とした空間（割合でいうと、子ども7割、
大人3割）と考えている。東側に図書館機
能やワーキングスペースを配置し、西側
には喫茶店や買い物できる場を配置し、大
人向けの空間と考えた。その他にも、4階に
、イベントや市民活動で使用する器具を取り
出せるように倉庫を配置した。また、障が
い者が迷わないで移動できるように、総合
案内窓口を配置した。

・5階

メインに、吹奏楽や音楽会を行える広め
の多目的室を配置した。また、コワーキ
ングスペースも配置した。その他、あすび
あや行政サービス機能も考え、場所として
は、角に配置した。行政サービス機能を提供
するにあたっては、ノーと言わないスタンス
で、クオリティの高いサービスを提供でき
るようにすることが大事だと考えている。

○Cグループ

・全体

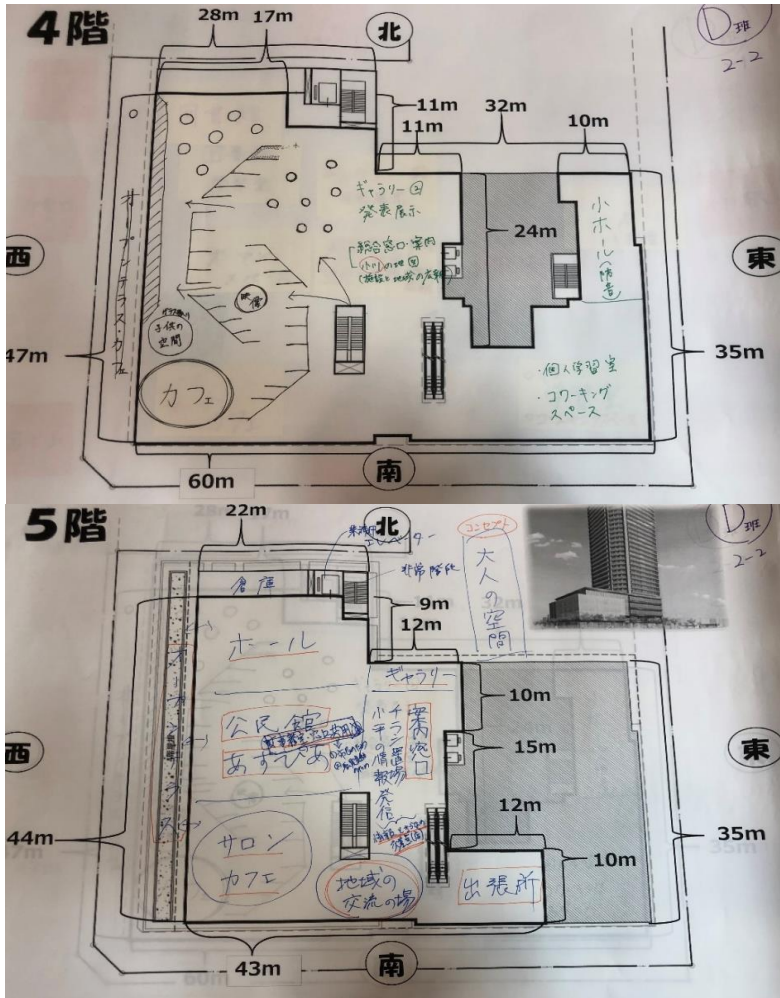
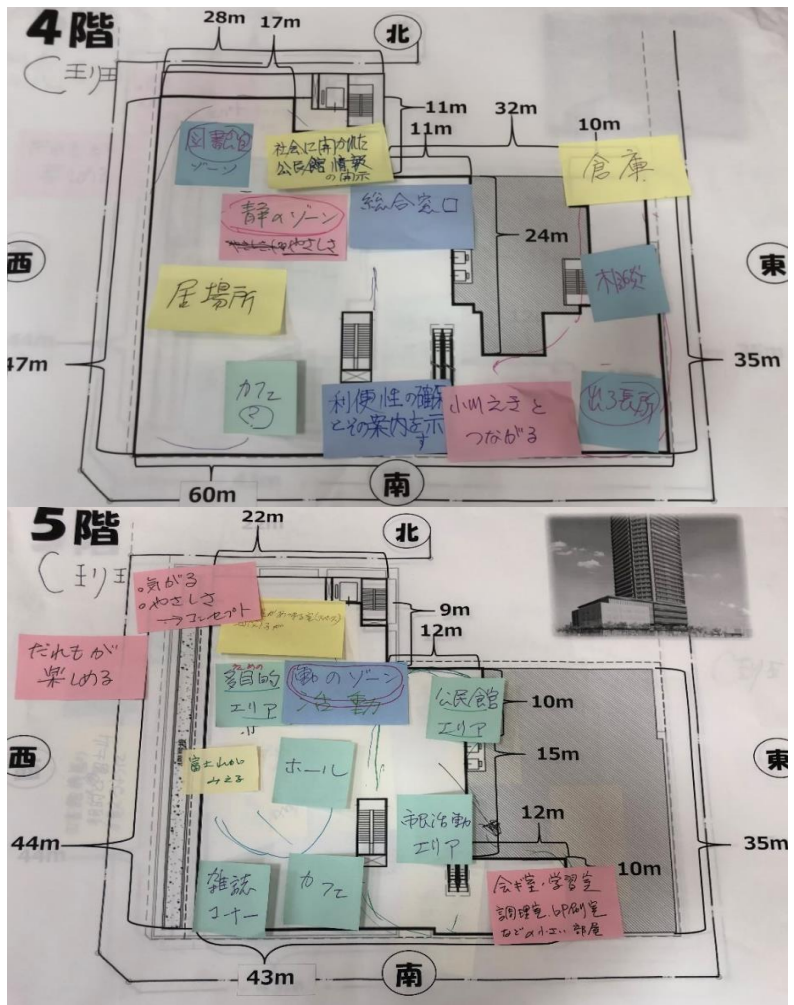
「優しさ」を切り口に、サービスや施設機能を考えた。4階を静ゾーン、5階を動ゾーンと位置付けた。静ゾーンでは、静かに勉強できる空間とし、動ゾーンでは、活動系のスペースを配置した。

・4階

図書館機能を配置し、子どもや高齢者に関する機能を配置した。また、コーヒーを飲めるスペースも配置した。東側には、使い勝手がいいように、総合案内窓口や出張所機能を配置した。

・5階

富士山を見ながら活動できるようにするため、西側に広めの多目的室を配置した。その他、西側にカフェ機能や公民館機能を配置した。



○Dグループ

・全体

本に囲まれているイメージで配置した。場所によっては、映像が見られる場所、電子機器で調べられる場所を考えた。前提として、コンセプトである「交差点」と「交差点」を中心として、検討した。

・4階

階段を上がった、すぐエントランス機能やギャラリー機能、総合案内窓口、地域の案内機能があるように配置した。また、東側に、音楽をする人が使える小ホールを配置し、コワーキングスペースなども配置した。西側に、おしゃべりしながら勉強できる自習室も配置した。南西側には、子どもスペースやカフェを配置した。

・5階

5階は、全体的に大人の空間とした。総合案内窓口 (小平全体の案内も含む)、広めの多目的室機能を配置した。その他、あすびあに係る機能は、市民活動系のエリアの近隣に配置し、業務の効率化へとつながるように、ロッカーや印刷機を共同で活用することとした。西側には、カフェ付きオープンスペース、地域活用スペースを配置した。出張所機能は、目立たないところに配置した。

5. 第1部を終えて

中央デザインカフェ・小川デザインカフェともに、毎回、活発な意見交換や様々なアイデアが発表され、会場は熱気で包み込まれていました。

市としても、「また次回も行きたい」と思っていただけのように、参加者の方々から頂いたお声に応じて、カフェの進行や雰囲気づくりなど工夫してまいりました。

第1部の日程は終了となりましたが、第2部でも「次の世代の公共施設づくり」のため、カフェでリラックスしながら多くの方々が、様々なアイデアを出す場としていきたいと思えます。

たくさんのご意見をいただき、また、「中央・小川デザインカフェ」の運営にもたくさんのご協力をいただき、本当にありがとうございます！



中央・小川デザインカフェの日程・テーマ

中央デザインカフェ	第1部			第2部		
	第1回 11/10(土) 10:00~12:00 中央公民館 周辺の未来を 想像しよう！	第2回 12/2(日) 14:00~16:00 誰もが使いやすい公共空間 を考えよう！	第3回 12/22(土) 9:30~12:00 公共空間の 価値創造提案 を考えよう！	第1回 1/19(土) 14:00~16:00 新建物に期待 する機能を 整理しよう！	第2回 2/17(日) 10:00~12:00 新建物の 運営方法など を考えよう！	第3回 3/17(日) 9:30~12:00 地域に愛され る新建物を 目指そう！

小川デザインカフェ	第1部			第2部		
	第1回 11/10(土) 14:00~16:00 小川駅周辺を 見つめよう！	第2回 12/2(日) 10:00~12:00 公共スペース のあり方を 考えよう！①	第3回 12/22(土) 14:00~16:30 公共スペース のあり方を 考えよう！②	第1回 1/19(土) 10:00~12:00 市民広場の 活用方法を 考えよう！	第2回 2/17(日) 14:00~16:00 誰もが楽しめる にぎわいの場を 考えよう！	第3回 3/17(日) 14:00~16:30 小川駅前の 未来予想図を 描こう！



引き続き、市民参加へのご協力をお願いいたします！



【お問合せ】小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課
 〒187-8701 小平市小川町2-1333 Tel 042-346-9557
 Fax 042-346-9513 メールアドレス facility-mg@city.kodaira.lg.jp